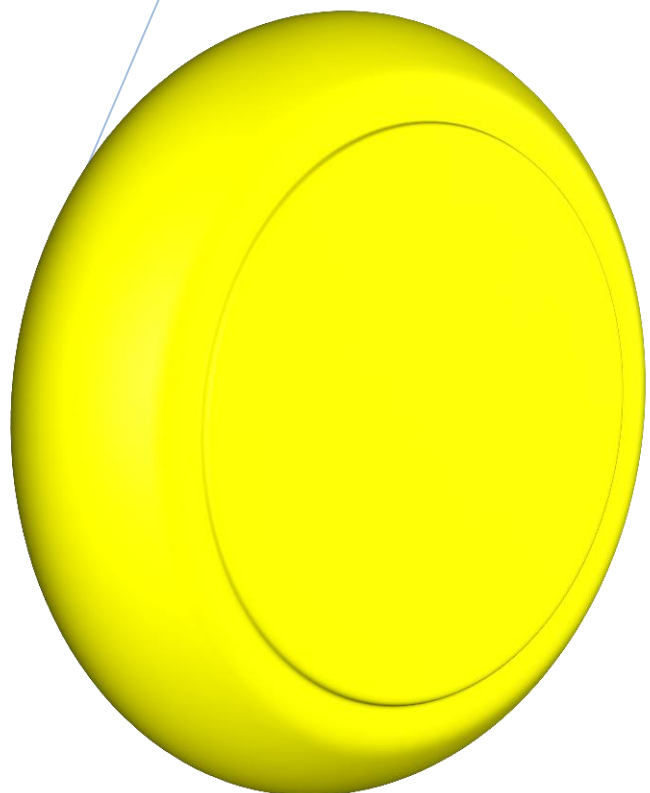
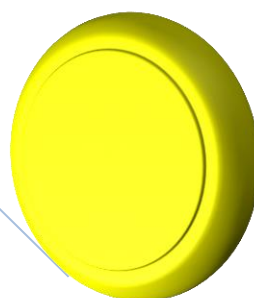
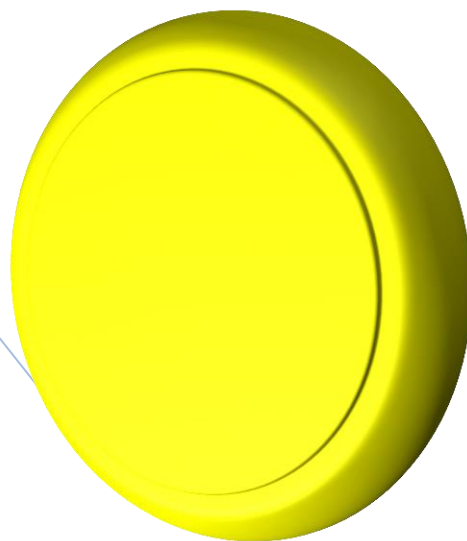


Refugee

難民分野分科会実施要項

開催日時 2016年5月21日(土)

東海グローバルサミット運営委員会



東海グローバルサミット難民分野分科会実施要項

日時2016年5月21日(土) 13:00~18:00
場所三重大学(三重県津市栗真町屋町1577)

「増え続ける難民問題の過去・現在・未来を考える」

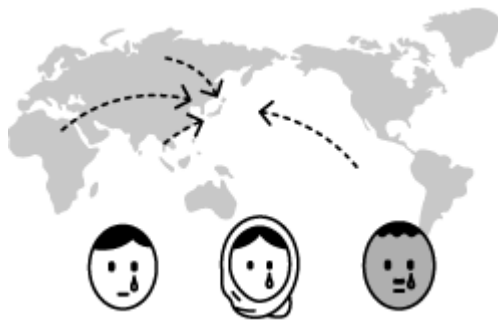
はじめに

現在、難民は世界各国に5950万人もいるとされている。近年では、シリア国内における戦闘激化によって、紛争最前線の移動に伴い、新たな地域からも人々が逃れ、増加の一途をたどっている。難民の多くは出身国の周辺国へ逃れる。シリア難民は特にレバノン(114万人)、ヨルダン(60万8000人)、トルコ(81万5000人)に集中している。難民キャンプでは収容しきれず、都市部などで多くの人々が生活している。空き地や路上での生活を余儀なくされており、児童労働など過酷な生活が続いている。また、難民キャンプでの生活はインフラの不整備や資源の不足から厳しく、キャンプから抜け出す人々もいる。

難民受け入れ国の中でも大量の難民を受け入れているのは比較的貧しい国である。社会インフラを改善し、公共サービスの提供を拡大しなければならないが、もともと貧しい地域であるため、上下水道や電力供給、ごみ処理、学校での児童生徒の受け入れ、保健衛生などの面で大きな負担となっている。

世界全体での連携が必要となってくるのは言うまでもない。特に先進国は整った社会インフラ・社会保障、豊富な資源も持っているため、難民を救う、共生できる力がある。しかし、日本は2015年7586人が難民認定申請したのに対して、難民認定したのは27人と低水準にとどまっている。

本討論では、このような世界の難民問題を把握したうえで、2050年の未来では難民条約に批准している日本は世界の中の日本として難民問題にどのように取り組んでいくべきかを考察し、行動宣言として提示したい。



日本における難民問題を考える意義

日本は先進国であり、整った社会インフラを持っている。また、1970年代後半、社会問題ともなったインドシナ難民を1万1000人も受け入れたという経験がある。難民受け入れに関しては資源とノウハウの両者を兼ね備えている国なのである。

よって、このような難民受け入れに潜在的な能力を備え持つ日本だからこそ世界の中の日本として難民問題にどのように向き合っていくべきなのかを考察していくことが求められている。

また、難民問題は国レベルの制度面だけでなく、地域レベルでの支援も必要不可欠である。どんなに制度が改善されても、地域とのつながりがなければ孤立してしまう。難民問題を考えることは、国のことを考えること、地域を見つめなおすことにつながる。難民問題を見つめることで日本のあるべき姿も創造することができるのである。

1. タイムライン

コンテンツ	時間
5月21日(土)12:00 ランチタイムセッション (11:30~)	
13:00 分科会開始・挨拶	5分
アイスブレイク	10分
13:15 パネリスト講演 I	40分
質問タイム	質問 5分
14:10 ディスカッション I	40分
テーマ：難民問題の過去・現在	共有 10分
15:10 ディスカッション II	30分
テーマ：2050年のヴィジョン作成	共有 10分
16:00 ディスカッション III	50分
テーマ：難民問題の未来	共有 10分
17:00 行動宣言作成	60分
18:00 分科会終了	

2. コンテンツ内容

日本の難民問題を過去・現在・未来という視点で考察していく。

難民問題の 2050 年の未来を考えるにあたり、現在の抱える日本の問題を過去からの歴史の変遷や異なる点を踏まえながら考察していき、そこから未来への提言を探求していく。

☆ディスカッショングループ

グループ A. 難民認定制度：難民条約に批准した日本の制度的側面について

ex 日本の難民条約の解釈、第三国定住、他国との比較・・・

グループ B. 就労

ex 難民の就労問題、難民への起業サポート、他国との比較・・・

グループ C. 教育

ex 難民への日本語教育、難民 2 世への母語教育・学校教育・・・

グループ D. 健康・医療・メンタルヘルス

ex 難民の高齢化問題、難民の心理的ケア、医療機関との関わり・・・

このように 5~6 人の少人数の 4 つのグループによってディスカッション、意見のまとめを行う。グループごとに難民問題の過去・現在、2050 年のヴィジョン作成、未来への提言の 3 回のディスカッションに分けて考察する。(ポストイットと模造紙を配布して進めていく)

☆ディスカッションテーマ

① ディスカッション I

テーマ：難民問題の過去・現在

日本の難民問題に関してインドシナ難民問題との比較を通じて現在の問題点を明確化し、その対応策に関して考察していく。

② ディスカッション II

テーマ：難民問題の 2050 年のヴィジョン

過去のインドシナ難民から現在の難民問題の歴史の変遷を踏まえながら、2050 年の未来のヴィジョンの作成をしていく。

③ ディスカッション III

テーマ：難民問題の未来、日本のこれからとるべき姿勢

これまでのディスカッションを踏まえて、難民問題の歴史の変遷や現在の問題点から 2050 年の未来を予想し、それに向けて日本がどのようにこの問題に取り組んでいくべきかを具体的な行動宣言として提示する。